

鹿児島県総合教育センター

令和3年度長期研修研究報告書

研 究 主 題

「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成  
－「読むこと」から「書くこと」の指導を通して－

曾於市立岩北小学校

教 諭 室 屋 真 紀

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
1	研究の背景	1
(1)	これまでの取組から	1
(2)	各種調査結果から	1
2	研究の方向	3
II	研究の内容	4
1	研究のねらい	4
2	研究の計画	4
3	研究の基本的な考え方	4
(1)	「自分の考え」をもって書くとは	4
(2)	「自分の考え」をもって書くために	5
4	研究の仮説	5
5	研究の視点	6
(1)	視点A 単元を通して課題意識をもたせることについて	6
(2)	視点B 1単位時間における課題意識をもたせることについて	7
III	研究の実際	9
1	検証授業の計画	9
2	検証授業Ⅰ	9
(1)	検証授業Ⅰの概要	9
(2)	視点Aの検証	10
(3)	視点Bの検証	12
3	検証授業Ⅱ	15
(1)	検証授業Ⅱの概要	15
(2)	視点Aの検証	15
(3)	視点Bの検証	18
IV	研究のまとめ	21
1	研究の成果	21
2	今後の方向性	22
※	引用・参考文献	

# I 研究主題設定の理由

## 1 研究の背景

### (1) これまでの取組から

現代社会はグローバル化の進展や技術革新等によりめまぐるしく変化しており、今後ますます予測困難な社会になっていくと言われている。そのため、文部科学省<sup>1)</sup>(2018)は、そのような社会を担う子供たちに、社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながらよりよい社会と幸福な人生の創り手となる力、いわゆる育成を目指す資質・能力を身に付けさせる必要があるとし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた授業改善の推進を求めている。

国語科においては、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目指し、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の全ての領域において学習過程を一層明確にし、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けるなどしている。「国語で正確に理解し適切に表現する」とは、学習指導要領によると、「国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力」とされている。どちらも「連続的かつ同時に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには、国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である」と示されている。

複式学級を有する極小規模校である本校では、これまで、「書くこと」の領域の指導に絞り、研究授業やNIEの取組を通じた研究に取り組んできた。その結果、これらの取組を継続して行うことで子供が充実感を味わい、自信を付けたことで文章を書くことや全校の前で発表することに抵抗はなくなってきた。しかし、調べ学習の際にインターネットで調べたことや、授業で教師が板書したものをそのまま写す作業になってしまう子供がほとんどであり、「自分の考え」を十分表現することにつながっていないと感じる。

### (2) 各種調査結果から

#### ア 全国学力・学習状況調査及び鹿児島学習定着度調査

令和3年度全国学力・学習状況調査では、本校の6年生の国語の結果は全国平均に比べて選択式では2.2ポイント高く、国語の問題全14問中12問が正答したという結果であった。一方、「資料を読み、どのような仕組みか」、「資料を読み、どのように使われているのか」を問う記述式の問題は3人中2人が誤答だった。

また、鹿児島学習定着度調査の国語の問題では、5年生全員の平均通過率が85%であったが、「1文目は書き出しに合わせて体験したい活動を書き、2文目にその活動を選んだ理由を、本文中から根拠となる言葉や文を取り上げて書くという条件に合わせて記述する」という問題を3人中2人が解答することができなかった。

#### イ 教研式標準学力検査NRT

表1は、教研式標準学力検査NRT(教育応用心理研究所)の結果のうち、「自分の考え」を表現することに関する国語科の問題の内容項目を抜粋したものである。

表1 教研式標準学力検査NRTの国語科の5・6年生の結果(一部抜粋)

(○すぐれている ▼指導を要する)

	第5学年			第6学年				
	内容項目	A児	B児	C児	内容項目	D児	E児	F児
1	情報を選び構成を考えて話す	○	▼		情報を選び構成を考えて話す	▼	▼	▼
2	話や意見の背景を考えて話し合う	○	▼	▼	目的に応じて工夫して書く			▼
3	情報を選び構成を考えて書く			▼	文章を整え感想や意見を伝え合う	▼	○	○
4	考えや感想をもって伝え合う	▼	▼	○	主題や構成を読み取る	○	○	▼

1) 文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社

5・6年生ともに個人差はあるものの、全国平均の正答率を上回る結果だった。しかし、報告文を読み、段落メモから段落を見付けたり、図表と文を関連付けたりする問題や、文字数を指定し、文章の内容をまとめて記述式の問題など、「1 情報を選び構成を考えて話す」に関する問題は、6人中4人が誤答であり、話す・聞く・書く・伝え合うなど表現力に課題が残る結果となった。

#### ウ 意識調査

小学校学習指導要領国語編の「読むこと」、「書くこと」の指導事項について子供はどの程度理解しているか、また、教師は子供がどの程度理解しているかについて調べる自作の意識調査を行った（表2、3）。

表2 「読むこと」についての教師と子供の意識調査

（調査対象 本校5年生3人、6年生3人、教師1人）

（4できる 3どちらかといえればできる 2どちらかといえればできない 1できない）

「読むこと」に関する内容項目		第5学年						第6学年					
		A児		B児		C児		D児		E児		F児	
		教師	子供	教師	子供	教師	子供	教師	子供	教師	子供	教師	子供
1	段落のつながりに注意して読むことができる。	2	3	2	3	2	3	3	3	3	4	3	4
2	理由や事例との関係を見付けることができる。	2	2	2	2	2	2	3	4	3	4	3	3
3	中心となる言葉を見付けて、要約することができる。	1	3	1	2	1	1	2	3	2	3	2	3
4	登場人物の行動や気持ちを想像して、話の大体の内容が分かる。	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3
5	登場人物の気持ちの変化や性格、情景を、場面の移り変わりと結び付けて想像することができる。	3	4	3	4	2	4	3	4	3	4	3	2
6	文章を読んで分かったことについて、感想や自分の考えをもつことができる。	2	4	2	1	2	3	2	4	2	3	2	3
7	文章を読んで感じたことや分かったことを友達と交流して、いろいろな考え方があるのだと気付くことができる。	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3

（黄色いセルは子供と教師の意識の差が2ポイント以上の項目）

表3 「書くこと」についての教師と子供の意識調査

（4できる 3どちらかといえればできる 2どちらかといえればできない 1できない）

「書くこと」に関する内容項目		第5学年						第6学年					
		A児		B児		C児		D児		E児		F児	
		教師	子供	教師	子供	教師	子供	教師	子供	教師	子供	教師	子供
1	相手や目的に気を付けて、経験したことや創造したことなどから書くことを選ぶことができる。	3	2	3	3	2	2	4	3	4	4	4	2
2	集めた材料を比べたり分けたりして伝えたいことをはっきりして書くことができる。	2	3	2	1	2	2	3	2	3	3	3	3
3	書く内容の中心をはっきりさせて、内容のまとまりで段落をつくることができる。	2	4	2	3	2	3	3	2	2	3	3	3
4	段落どうしの関係に注意して文章の構成を考えることができる。	2	4	2	2	2	3	3	3	2	4	3	2
5	自分の考えと、それを支える理由や事例との関係をはっきりさせて、書き表し方を工夫することができる。	2	3	2	1	2	3	4	3	4	4	4	2
6	相手や目的を意識した表現になっているか確かめて、文や文章を整えることができる。	2	3	2	1	2	2	3	4	3	3	3	3
7	書こうとしたことがはっきりしているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。	2	4	3	2	2	3	3	4	3	4	3	3
8	自分の文章のよいところを見付けることができる。	2	3	2	2	2	4	2	3	2	4	2	3

（黄色いセルは子供と教師の意識の差が2ポイント以上の項目）

全体的には、子供、教師ともに「できる」、「どちらかといえばできる」と意識している内容項目が多い。しかし、「書くこと」に関する内容項目は、「読むこと」に比べ、「どちらかといえばできない」と意識している内容項目が多い結果となった。

また、子供と教師の意識の差が2ポイント以上ある項目（表2、3の網掛け部分）は、「書くこと」だけでなく、「読むこと」の内容項目にも多く、子供と教師の意識の差が大きいと言える。また、子供、教師ともに「読むこと」に関する内容項目で「できない」と回答したものが多い。特に、「3 中心となる言葉を見付けて要約する」ことについては、教師もできないと感じていることから、私たち教師の指導にも課題があると考えていることが分かる。

## エ 問題による実態調査

「読むこと」の指導事項を中心に、「書くこと」についても含めて、子供が実際に問題に解答し、どの程度理解しているかを調べるために実態調査を行った。表4は問題の概要と正誤をまとめたものである。

表4 「読むこと」の指導事項を中心に「書くこと」についても含めた理解を調べる問題の概要と正誤

(○正答, △誤答, 空欄無答)

		問題の概要	第5学年			第6学年		
			A児	B児	C児	D児	E児	F児
1	文学的文章	人物の気持ちの変化が分かるところを書き抜く。	△			○	○	○
2		登場人物同士の関わりの変化を書く。	○	○	○	○	○	○
3		場面の様子や登場人物の気持ちをまとめる。	△	△	△	△	○	△
4	説明的文章	段落から大事な言葉を書き抜く。	○	○	△	○	○	○
5		要約する。	△	△	○	△	○	○
6		段落の構成を考える。(選択式)	○	△	○	○	○	○
7		原因と結果を示す言葉や文章を見付ける。	△	△	△	○	△	○
8		要旨に対する自分の考えを書く。	△	○	△		△	○

5・6年生ともに、文学的文章に関する問題の正答が高かったが、全体的には選択式の問題よりも記述式の問題に答えられる子供の方が少なかった。また、「3 (文学的文章) 場面の様子や登場人物の気持ちをまとめる。」「7 (説明的文章) 原因と結果を示す言葉や文章を見付ける。」問題の正答が低く、文章の内容を読み取ることに課題が多いと言える。

## 2 研究の方向

各種調査結果から、子供たちは、読む・書く・伝え合うなど表現力に課題があり、「自分の考え」を相手に伝わるように分かりやすく書くことが十分でないことが分かる。また、情報を選び構成を考えることができないという結果から分かるように「自分の考え」を十分にもてる子供が多くないということが考えられる。さらに、「書くこと」だけでなく「読むこと」にも課題があることから、文章を読んで理解することに課題がある子供がいるということも考えられる。これらのことが重なり、記述式の問題が特に解けないという状況となり、しかも、これらのことについては教師自身も指導の必要性を感じていると言える。

これらの背景には、国語科の授業において、子供は学習に対して目的を十分もてず、学習が単なる作業となってしまう、「自分の考え」をもてずに、読んだり、考えたり、書いたりすることができない状況であると考えられる。

そこで、「書くこと」の領域だけでなく「読むこと」から「書くこと」の領域の一連の学習の流れ

の中で「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成を目指す研究が必要だと考えた。

これらのことから、目指す子供像を

読みながら「自分の考え」をもち、「自分の考え」を分かりやすく書くことができる子供とした。

以上のことから、本研究主題を次のように設定した。

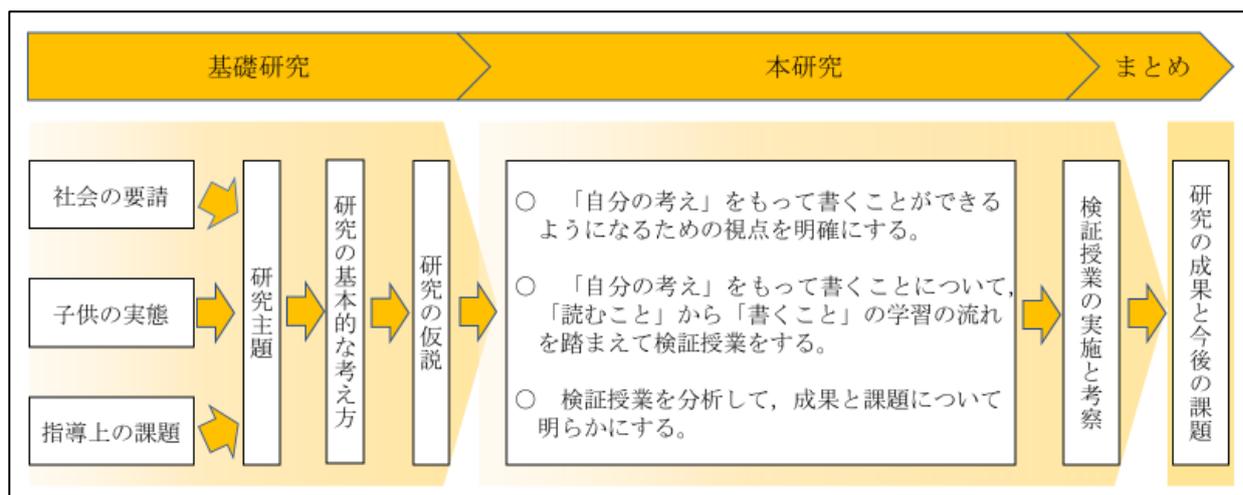
「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成  
－「読むこと」から「書くこと」の指導を通して－

## II 研究の内容

### 1 研究のねらい

- (1) 「自分の考え」をもって書くことができるようになるための視点を明確にする。
- (2) 「自分の考え」をもって書くことについて、「読むこと」から「書くこと」の学習の流れを踏まえて検証授業をする。
- (3) 検証授業を分析して、研究の成果と課題について明らかにする。

### 2 研究の計画



### 3 研究の基本的な考え方

- (1) 「自分の考え」をもって書くとは

「自分の考え」をもって書くということは、何かをただ写したり、指示されたことを機械的に書いたりする作業ではなく、自分がこれまでに学習して得た知識や様々な経験を踏まえて、目的を果たすために課題意識をもち、分かりやすく文章に表すことであると考えます。

日常生活では、話す・聞く・書く・伝え合うことが混在している。そのため、国語科の学習では社会的事象から意見文を書いたり、新聞記事から感想をまとめたりするなど、「読むこと」から「書くこと」につなげて学習をすることが多い。よって、「自分の考え」をもって書くためには、「書くこと」の学習だけでなく、「読むこと」の学習においても、「自分の考え」をもつことが重要である。

図1は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編に示されている学習過程において、「自分の考え」をもつことを表した図である。学習指導要領では、「読むこと」、「書くこと」のどちらの学習過程にも「考えの形成」を位置付けている。しかし、一人一人が確固たる「考えの形成」をするためには、「考えの形成」の過程でのみ「自分の考え」をもつのではなく、それぞ

れの過程において「自分の考え」をもつことが大事である。つまり、毎時間「自分の考え」をもつことが重要である。

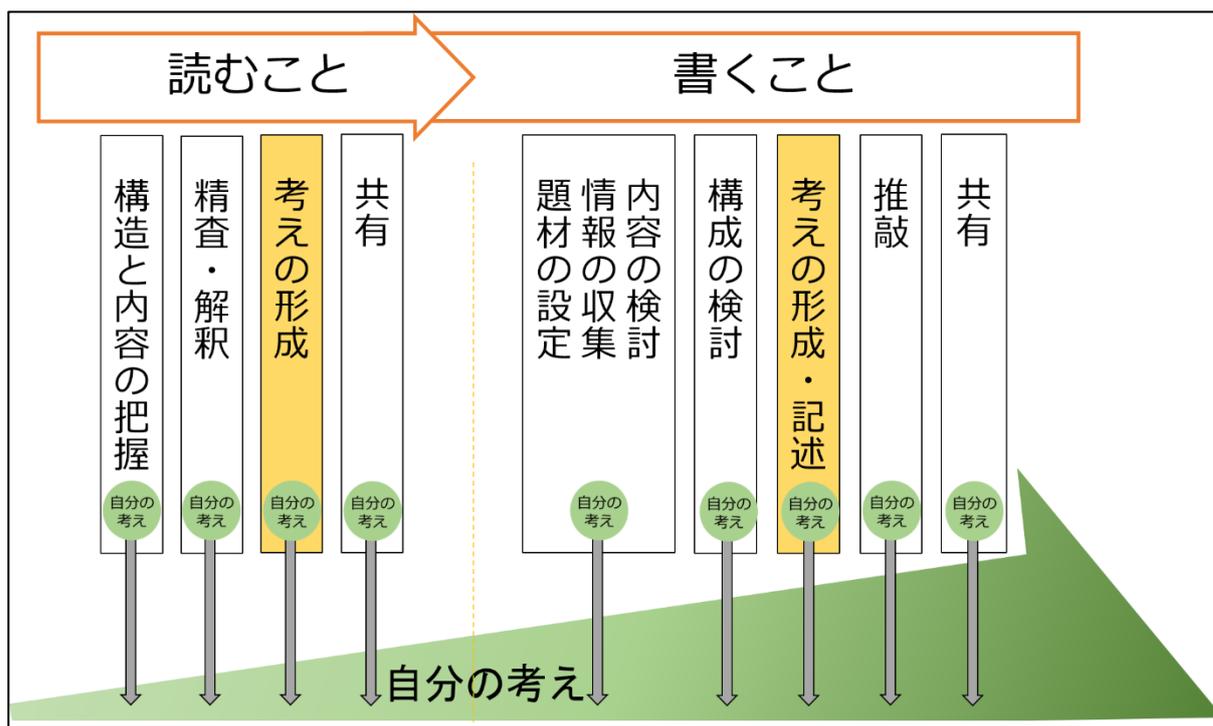


図1 「読むこと」から「書くこと」の学習における「自分の考え」

(2) 「自分の考え」をもって書くために

「自分の考え」をもって書くためには、「何のためにこの学習をするのか」という目的をもって読み、「そのためにどのような学習をすればよいのか」という課題意識をもつことが大切である。

また、国語科は単元の目標を明確にし、それに迫るために言語活動を通して、毎時間課題を解決していく教科である。そのため、単元全体を通して、子供一人一人が課題意識を持続していくことが大切である。

さらに、できるようになったことや分かったことを客観的に捉えることで、学びに対する必要感をもち続けながら学習に取り組むことができる。そのため、学習の振り返りを、単元を通して行うことも大切である。

そこで、図2のように、「課題意識をもつ」、「課題意識を持続する」、「課題意識に対して振り返る」という一連の学習の流れを繰り返すことにより、「自分の考え」に対する客観的な自覚が促され、「自分の考え」をもって書く力が育成されると考える。

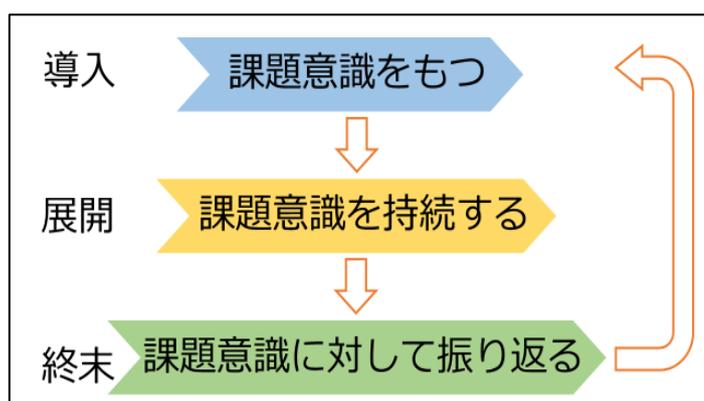


図2 単元、1単位時間における課題意識を踏まえた学習の流れ

#### 4 研究の仮説

目指す子供像に迫るために研究の基本的な考え方を踏まえ、次のように研究の仮説を設定した。

「読むこと」から「書くこと」の学習の流れにおいて、課題意識をもたせる指導の充実を図れば、子供は目的をもって読むようになり、「自分の考え」をもって書くことができるようになるのではないか。

## 5 研究の視点

問題解決的な国語科の学習を実現するためには、単元の導入段階で「課題意識をもつ」ことを、展開段階で「課題意識を持続する」ことを、そして終末段階で「課題に対して振り返る」ことを行うことが望ましい。さらに、単元を通してだけでなく、毎時間積み重ねていくことが重要であると捉え、1単位時間においても、これらを行っていく必要がある。

そこで、**視点A**を「単元を通して課題意識をもたせること」(表5)、**視点B**を「1単位時間における課題意識をもたせること」(表6)と設定した。

(1) **視点A** 単元を通して課題意識をもたせることについて

表5 **視点A**における手立てと考え方

	手立て	考え方
導入	① 単元で取り組む言語活動の試行(試しづくり)	<p>子供自身がどのような力を身に付ける必要があるのか課題意識をもつことができるようにする。</p> <p>単元を通して取り組む言語活動を単元の導入段階で行うことで、課題意識をもたせる。</p>
	② モデルの提示	<p>単元を通して取り組む言語活動のイメージを湧かせ、課題解決への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>単元を通して取り組む言語活動のモデルを、教師が作成して提示する。その際、グッドモデルとバッドモデルを提示し、比較できるようにすることで、学習の見通しをもてるようにする(図3)。</p> <div data-bbox="1050 801 1434 1093" data-label="Figure"> <p>鹿角市立の小学校の学校数は四百八十二校あり、全国でも十七位であり、そのうち、複式学校は四九〇校ある。(二〇一九年の調査結果より)</p> <p>鹿角市の人口は、鹿角市全体の人口に比べてみると、その差は一目瞭然である。鹿角市は七十六校と約六・四倍多い。沖繩県も一〇六校と約四・六倍多い。</p> <p>鹿角市は、全国で二位でも小学校数が多い鹿角市と、鹿角市に多い鹿角市ということがある。</p> </div>
	③ 子供の主体的な学習計画	<p>子供一人一人が課題をもち、自分事としての課題意識を捉えられるようにする。</p> <p>子供一人一人の課題に寄り添って計画を立てることができるように、一人一人に単元を通して解決したい課題を短冊に記入させる。それらを子供たちが整理したり順序を決めたりしながら並べ替えをし、単元の学習計画を立てるようにする(写真1)。また、学習を進めていく中で、子供一人一人にとっての自分事の計画になるようにするために見直しが必要な場合、短冊を入れ替えて修正していく。</p> <div data-bbox="1029 1205 1434 1646" data-label="Image"> </div>
展開	④ 学習計画の見直し	<p>単元の目標を再確認することによって、課題意識を持続できるようにする。</p> <p>単元の導入段階で高まった課題意識は、学習を進める過程で薄れていくことが多い。そこで、単元の学習の途中で、子供たちが学習計画を見直すことができる機会をつくることで、課題意識が持続されるようにする(写真2)。</p> <div data-bbox="1005 1758 1434 2038" data-label="Image"> </div>

図3 図表のよさに気付かせるためのモデル

写真1 短冊の並び替えによる計画の見直し

写真2 学習計画の見直し

展開	⑤ 異学年との交流	<p>多様な情報を得ることで、「自分の考え」をより広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>「自分の考え」をより広げたり深めたりするためには、学習を質的に高めたり、協働による新たなアイデアを創造したりする他者との交流が効果的である。そこで、単元を通して異学年と交流する機会をつくることで、上学年の子供は下学年の友達にアドバイスすることで学習したことを再確認したり、下学年の子供は上学年の友達にアドバイスをもらうことで情報を増やしたりできるようにする（写真3）。</p>
		写真3 異学年の子供同士の交流
終末	⑥ 導入との比較	<p>自分の学習を振り返ることを通して、学習に意味を見だし、本単元で獲得した資質・能力に自信がもてるようにする。</p> <p>単元の学習を通して、子供が「何が分かったのか、できるようになったのか」、「学びを通して自分の考えがどのように変容したのか」などの観点で、単元の導入時の自分自身の資質・能力と比較することで、自分の学習を振り返ることができるようにする。その際、変容が分かるよう可視化されるようにする（図4）。</p>
		図4 学習前と学習後の比較
	⑦ 学習の成果の発表	<p>課題を解決したという充実感や学習することのよさを感じることができるようになる。</p> <p>単元を通して取り組んだ言語活動を、友達や家族に発表する機会を設けることで、子供自身が課題を解決したという充実感や学習することのよさを感じることができるようになる（写真4）。</p>
		写真4 発表の様子

(2) **視点B** 1 単位時間における課題意識をもたせることについて

表6 **視点B**における手立てと考え方

	手立て	考え方
導入	① 単元の流れとのつながりを意識した声掛け	<p>課題意識をもち続けることができるようにする。</p> <p>毎単位時間の導入において「何のためにこの時間学習するのか」という声掛けを繰り返すことによって、子供が単元を通しての課題意識を再確認し、学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。</p>

<p>導入</p>	<p>② 本時の目標の自覚化</p>	<p>子供たち自身で本時の目標を考えることによって、自分事としての課題解決への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>「この1（単位）時間で何が分かればいいのか。」という声掛けをすることによって、子供たちが主体的に本時の目標を考え、課題解決への見通しを自分事として捉えることができるようにする（写真5）。</p>  <p>写真5 子供が目標を板書する</p>
<p>展開</p>	<p>③ 同学年との交流</p>	<p>子供一人一人の必要感に応じた交流によって、「自分の考え」を広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>他者と対話し、共感したり納得したりする機会を設けることで、「自分の考え」を広げたり深めたりすることができるようにする（写真6）。その結果、子供たちが「自分の考え」に対して自信をもったり、新たな発見をしたりできるようにする。</p>  <p>写真6 意見をもち寄り協働する</p>
	<p>④ 異学年との交流</p>	<p>異学年の子供との交流によって、「自分の考え」をより広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>「自分の考え」をより広げたり深めたりするためには、学習を質的に高めたり、協働による新たなアイデアを創造したりする他者との交流が効果的である。そこで、毎時間必ず展開段階で交流する時間を設定し、アドバイスをし合うことができるようにする（写真7）。</p>  <p>写真7 異学年の友達との交流</p>
<p>終末</p>	<p>⑤ 学習の振り返り</p>	<p>課題を解決したという充実感や学習することのよさを感じたり、新たに課題等を見いだしたりすることができるようにする。</p> <p>1単位時間で解決して「分かったこと」だけでなく、学び方や考え方などを子供たち自身が振り返ることで、学習に対する達成感につなげるようにする。さらに、授業の最後に1単位時間ごとの振り返りをノートに書くことを積み重ねる手立てを講じることで、子供一人一人が「自分の考え」を広げたり深めたりすることができたという実感につながるようにする（写真8）。</p>  <p>写真8 振り返りの発表</p>

### Ⅲ 研究の実際

#### 1 検証授業の計画

視点A, 視点Bについて, 下の表のように計画し実施した。

##### (1) 1学期

第5学年	単元名	文章の要旨をとらえよう (全9時間)
	教材名	「見立てる」, 「言葉の意味が分かること」 光村5年上
第6学年	単元名	筆者の主張や意図をとらえ, 自分の考えをもとう
	教材名	「笑うから楽しい」, 「時計の時間と心の時間」 光村6年上

##### (2) 2学期

第5学年	単元名	資料を用いた文章の効果を考え, それをいかして書こう (全8時間)
	教材名	「固有種が教えてくれること」, 「グラフや表を用いて書こう」 光村5年上
第6学年	単元名	表現の工夫をとらえて読み, それをいかして書こう
	教材名	「『鳥獣戯画』を読む」 光村6年上

本報告書では, 「文章の要旨をとらえよう (全9時間)」を検証授業Ⅰとして, 「資料を用いた文章の効果を考え, それをいかして書こう (全8時間)」を検証授業Ⅱとして掲載する。

#### 2 検証授業Ⅰ

##### (1) 検証授業Ⅰの概要

単元名	文章の要旨をとらえよう (全9時間)
教材名	「見立てる」「言葉の意味が分かること」 光村5年上

本単元では, 原因と結果など情報と情報との関係について理解したり, 文章全体の構成をとらえて要旨をまとめたりする能力を身に付けさせたい。

教材「見立てる」は, 人は生活や自然と関わりながら, 見立てるという行為をしており, それは想像力に支えられているということを題材にしている

る説明的文章である。文章量が少なく, 見開き1ページにコンパクトにまとまっており, 原因と結果が分かりやすく段落の構成を理解しやすいため, 要旨を捉えるのに適している教材である。また, 教材「言葉の意味が分かること」は, 一つの言葉がたくさん物事を表すような事例を出しながら, 日本語が多様な意味をもっているということを題材にした双括型の説明的な文章である。本教材は, 筆者の意図が分かりやすいように, 「筆者の考え」, 「説明と事例」, 「筆者の考え」の三つの大きなまとまりで構成されており, 要旨を捉えるのに適した教材である (図5上段)。

これらを踏まえて, 言語活動を筆者が伝えたいことを異学年の友達に紹介することと設定した (図5下段)。要旨をまとめるためにはどのように読めばよいのか, 紹介するためにはどうすればよいのかといった課題意識をもち, 持続し, 振り返ることを要旨をまとめることを通して学習する単元として構想する。

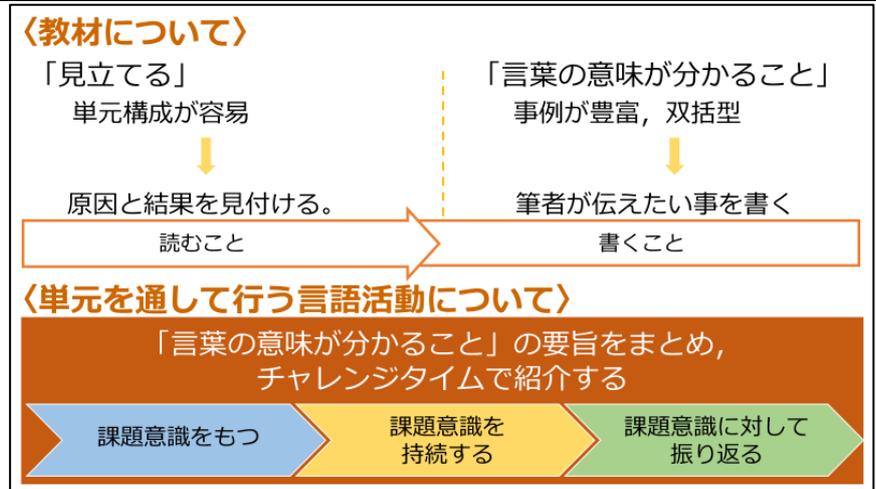


図5 教材の概要と単元を通して取り組む言語活動

(2) 視点Aの検証

ア 検証授業Iにおける視点A

表7 検証授業における視点A

	視点の具体
導入	① 要旨をまとめることを試しづくりすることで、課題意識をもつことができるようにする。 ③ 課題を子供一人一人が短冊に書くようにすることで、子供が自分事としての課題意識を捉えられるようにし、協働して学習計画を立てるようにする。
展開	⑤ 複式学級の特性を生かし、異学年でアドバイスをし合い、多様な情報を得ることで、「自分の考え」をより広げたり深めたりすることができるようにする。
終末	⑥ 試しづくりで書いた意見文と、学習したことを生かして書いた意見文とを比較させることで、子供自身が学習に意味を見だし、本単元で獲得した資質・能力に自信がもてるようにする。 ⑦ 学級でそれぞれの発表を見て認め合ったり、みんなの前で発表したりする機会をつくることで、課題を解決したという充実感や学習することのよさを感じることができるようにする。

イ 実際

学習過程・主な学習活動	教師の手立て
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>〈導入段階〉</span> <span>課題意識をもつ</span> </div>	
<p>1 試しづくりから単元の目標を設定し、課題を見付ける。</p>  <p>要旨はどこに書いてあるのだろう。何をどのように書けばよいのかな。</p>  <p>どのように書いたら友達に伝わるかな。</p> 	<p>○ 単元の最初に、要旨を実際に書かせることで、子供が学習に対する困り感や必要感が感じられるようにし、自分事として課題意識をもつことができるようにする。 <b>視点A-①</b></p> <p>今、自分が考える要旨を書いてみよう。</p> 
<p>2 学習計画を立てる。</p>  <p>何から学習しようかな。</p> <p>段落の内容が分かればよさそうだね。</p> <p>文章全体の内容が分かれば、筆者の伝えたいことは分かりそう。</p>	<p>○ 学習計画を常に見えるように掲示することで、子供が意識を持続させるとともに、解決した課題も確認できるようにする。 <b>視点A-③</b></p> <p>どんなことが解決できれば、要旨をまとめることができるようになるのかな。</p> 
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>〈展開段階〉</span> <span>課題意識を持続する</span> </div>	
<p>3 「見立てる」を使って課題解決をする。</p>  <p>キーワードをつなげると書けそうだよ。</p> <p>友達と一緒に考えるとできそう。</p>  <p>要旨のまとめ方が分かってきたよ。次は自分たちの力でやってみよう。</p>	<p>○ 分からないことを相談したり確認したり、友達の意見を自分の考えにも取り入れられるようにする。</p> <p>友達と協力して考えてみよう。</p> <p>どんな言葉がキーワードになるのかな。</p> 

4 練習を生かして、「言葉の意味が分かること」の教材文を読み取る。



同じ言葉には線を引こう。  
段落ごとに見出しを付けてみよう。  
原因と結果を線で結ぼう。

5 要旨をまとめ、友達と交流する。



同じところを抜き出すことができよかったです。

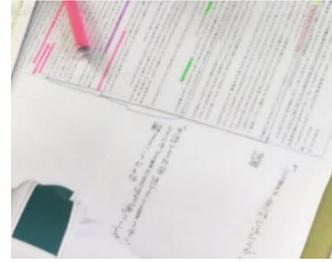
教えてもらったから、よく分かったよ。

6 チャレンジタイムに向けて発表の練習をする。



緊張したけど6年生からアドバイスをもらえてよかった。

○ 自由に線を引いたり書き込んだりできるワークシートを準備する。



○ 分からないことを相談したり確認したり、友達の意見を自分の考えに取り入れられるようにする。

困った時には、友達に相談したり、確認し合ったりしてみよう。



○ 全校の前で発表するために、学級の異学年で発表の練習を行い、アドバイスを基に推敲できるようにする。

視点A-⑤

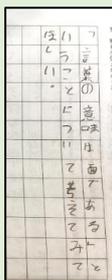
6年生は、昨年学習しているから、その時のことを思い出して、アドバイスしよう。



〈終末段階〉

課題意識に対して振り返る

7 試しづくりと比べる。



学習前

比較



学習後



こんなに書けるようになってうれしい。

○ 試しづくりで書いた文章と、学習後に書いた文章を比べるようにすることで、子供ができるようになったという充実感を味わわせ、自信をもたせるようにする。

視点A-⑥

はじめに書いたのがこれですよ。比べてみてどうかな。



8 全校の前で発表を行う。



〇〇さんが筆者の考えていることを分かりやすく伝えていたので、読んでいない私でも、どんなお話なのか分かりました。

3年生にも分かってもらえてよかった。次は他のところでも発表したいな。

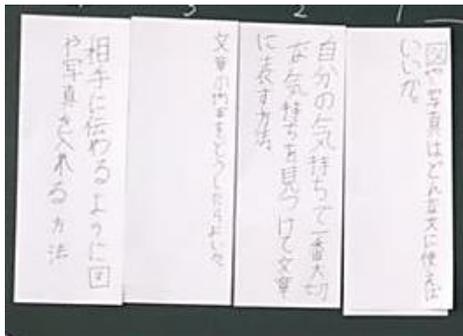
○ 3年生以上には、感想を話してもらうことで、頑張っよかったという気持ちをもたせるようにする。

視点A-⑦

他の学年の友達にも、感想を聞いてみよう。



ウ 成果と課題

	視点の具体 (成果◎, 課題△)	
導入	<p>① ◎ 試しづくりをすることで、自分の学習に必要な課題が見付き、課題意識をもたせることができた (写真9)。</p> <p>写真9 課題意識をもたせる場面</p> <p>③ △ 短冊に課題を書くことはできたが、単元の目標に迫るための課題が子供から出てこない時の声掛けが必要である (写真10)。</p> <p>写真10 子供一人一人が書いた課題</p>	 
展開	<p>⑤ ◎ 複式学級の特徴を生かし、異学年の友達と交流することで、6年生の友達からよりよいアドバイスを受けることができた (写真11)。</p> <p>写真11 6年生が5年生の作文を読む様子</p>	
終末	<p>⑥ △ 導入段階の試しづくりと比較する際、文章量だけではなく、内容により着目できるようにする必要がある。</p> <p>⑦ ◎ 実際に発表を行う場面をつかったことで、全ての課題を解決できたという充実感を味わうことができた (写真12)。</p> <p>写真12 全校の前で発表する様子</p>	

(3) 視点Bの検証

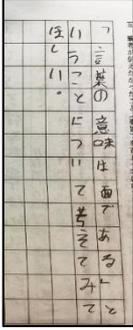
ア 検証授業 I における視点B

表8 検証授業における視点B

	視点の具体
導入	① 「何のためにこの学習をしているのか」という、単元の流れとのつながりを意識した声掛けを行うことで、目的への課題意識を持続できるようにする。
展開	<p>③ 同学年の友達との交流で、「自分の考え」を確認したり相談したりする機会をつくることで、「自分の考え」を広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>④ 異学年との交流で複式学級の特徴を生かし、「自分の考え」を広げたり深めたりすることができるような場を設定する。</p>

終末	⑤ 学習の振り返りをノートに書く機会を設けることで、子供一人一人が1単位時間で解決した課題を明らかにする。
----	---

イ 実際 (1/9)

学習過程・主な学習活動	教師の手立て
<b>〈導入段階〉 課題意識をもつ</b>	
<p>1 チャレンジタイムで、5・6年生の国語の学習発表会をすることを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>チャレンジタイムは下級生もいるからお手本になれるようにしましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>文章を知らない他の学年の友達に要旨を紹介するから、分かりやすくしなくちゃ。</p> </div> <p>2 「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめ、学習課題を見付ける。 (試しづくり)</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>要旨なんて書けないよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>要旨って何だろう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>何をどうやって書けばいいんだろうな。</p> </div>  <p style="text-align: center;">試しづくりで書いた要旨</p> <p>3 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>自分の考えが相手に伝わるように要旨をまとめるには、どのように読み、どのように書けばよいのだろうか。</p> </div> <p>4 学習の進め方を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全校の前での発表ということを明確にすることで、目的をもつことができるようにする。</li> <li>○ 単元の最初に、文章の要旨を実際に書かせることで、学習に対する困り感や必要感を感じられるようにし、自分事として課題意識をもつことができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>今、自分が考える要旨を書いてみよう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>どんなことが分かれば、書けそうかな。</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「相手に分かりやすく伝えること」を目的とし、そのための学習をするという意識をもたせる。</li> <li>○ 課題を出し合い、相談しながら学習の順序を確認させる。</li> </ul>
<b>〈展開段階〉 課題意識を持続する</b>	
<p>5 課題を解決する。</p>  <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>段落の内容が分かればよさそうだな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>文章全体の内容が分かれば、筆者の伝えたいことは分かりそう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流の場を設定することで、友達の見解でよいと思ったことは真似し、分からないときは教え合うことができるようにする。 <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">視点B-③</span></li> <li>○ 友達と意見交換することで、自分の考えを確認したり、友達の良いところを取り入れたりして、自分の考えが深まるようにする。 <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">視点B-③</span></li> </ul>

〈終末段階〉

課題意識に対して振り返る

6 まとめと振り返りをする。



私の意見が友達と同じで安心したな。

これから、何を学習しないといけないのか分かった。



みんなが分かりやすいって言うってくれるようにがんばろう。

○ 振り返りをするすることで、この学習の目的を確認するとともにこれからの学習への見通しをもたせることができるようにする。

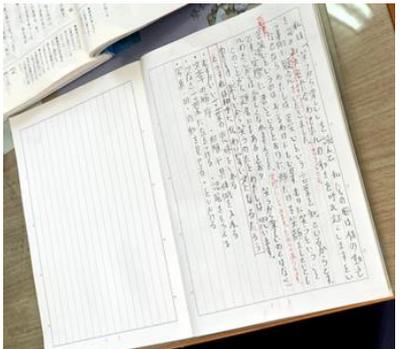
視点B-⑤

この時間で、どんなことが分かったかな。

学習の仕方は、どうでしたか。



ウ 成果と課題

視点の具体 (成果◎, 課題△)	
導入	<p>① ◎ 毎単位時間、「何のために学習するのか。」「そのためにはどのような課題があるか。」という観点で本時の目標を確認するようにしたことで、本時と単元全体の解決したい課題がつながり、課題意識を持続することができた (写真13)。</p> <div style="text-align: right;">  <p>写真13 課題意識の確認</p> </div>
展開	<p>③ ◎ 自由に友達に相談できる場を設定したことで、友達の考えから自分の考えを広げ深めることができた子供が増えた。</p> <p>④ △ 異学年の友達との交流の場を設定したことで、ほとんどの子供の「自分の考え」は広がり深まったが、友達へのアドバイスの仕方が分からない子供がいた (写真14)。</p> <div style="text-align: right;">  <p>写真14 相談の様子</p> </div>
終末	<p>⑤ △ 振り返りをしたことで、次の学習に向けて解決する方法などが難しいと感じる子供がいた。振り返りの観点を明確にする必要がある (写真15)。</p> <div style="text-align: right;">  <p>写真15 ノートへの振り返り</p> </div>

### 3 検証授業Ⅱ

#### (1) 検証授業Ⅱの概要

単元名	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう（全8時間）
教材名	「固有種が教えてくれること」、「グラフや表を用いて書こう」光村図書

本単元では、資料の効果的な活用の仕方を理解したり、目的に合った資料を選び、資料と文章を対応させて書いたりする力を身に付けさせたい。

教材「固有種が教えてくれること」は、「日本の環境を保全していかなければならない」という筆者の思いを、子供たちになじみの薄い固有種を例に、日本列島の成り立ちや気候、絶滅危惧種などについて、絵、表、

グラフなど様々な種類の図表を効果的に用いて丁寧に説明した文章である。複数の情報を文章と関連付けて読んだり、筆者の意図を理解したりする上で本単元の目標に迫るには適していると言える。教材「グラフや表を用いて書こう」は、前教材で学習したグラフや表を用いることで考えに説得力をもたせるということを基に、自分が資料を用いて書くための方法について、順序よく解説している。前教材で「読むこと」を学習した後、本教材で「書くこと」について学習するといった単元構成がしやすいため、本研究の検証に適していると言える（図6上段）。

これらを踏まえて、言語活動を家族へ意見文を書くことと設定した（図6下段）。これまで子供たちは、意見文を書く際、自分の考えがうまく伝わらず、もどかしい思いをしてきている。そこで、自分の伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかといった課題意識をもち、持続し、振り返ることを意見文の作成を通して学習する単元として構想する。

#### (2) 視点Aの検証

ア 検証授業Ⅱにおける視点A

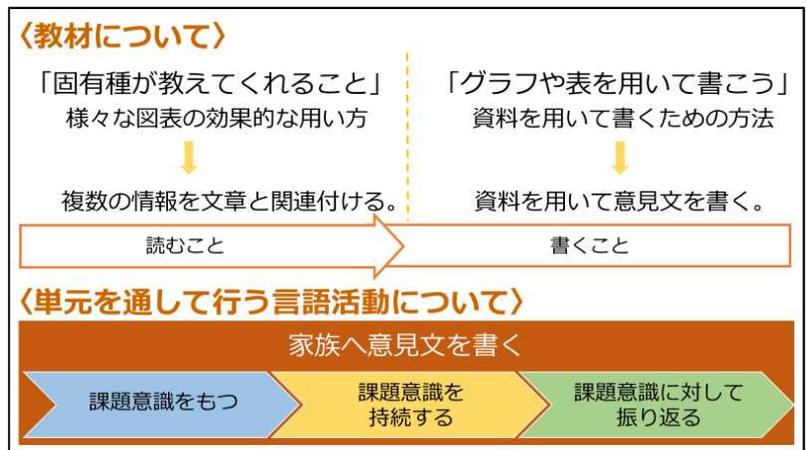


図6 教材の概要と単元を通して取り組む言語活動

表9 検証授業における視点A

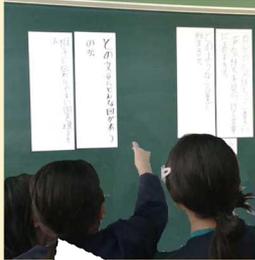
	視点の具体
導入	① 家族への意見文を試しづくりすることで、課題意識をもつことができるようにする。 ② 2種類のモデルを提示し、比較させることで課題解決への見通しをもつことができるようにする。 ③ 課題を子供一人一人が短冊に書くことで、自分事としての課題意識を捉えられるようにし、協働して学習計画を立てるようにする。
展開	④ 単元の目標に迫るために、これまでの学習で何ができるようになったのか、本時で何を学習すればよいかの確認を行うことで、課題意識を持続できるようにする。 ⑤ 複式学級の特徴を生かし、異学年でアドバイスをし合い、多様な情報を得ることで、「自分の考え」をより広げたり深めたりすることができるようにする。
終末	⑥ 試しづくりで書いた意見文と、学習したことを生かして書いた意見文とを比較することで、学習に意味を見だし、本単元で獲得した資質・能力に自信がもてるようにする。 ⑦ 学級でそれぞれの発表を見て認め合ったり、家族に意見文を基に伝えたりすることで、課題を解決したという充実感や学習することのよさを感じることができるようにする。

学習課題・主な学習活動	教師の手立て				
<p>〈導入段階〉 <span style="float: right;">課題意識をもつ</span></p>					
<p>1 試しづくりから単元の目標を設定し、課題を見付ける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>1行しか書けなかったよ。分からないことがたくさんだ。</p> <p>どのように書いたら私のお願いがお母さんに伝わるかな。</p> <p>お願いしたいことの他に何を書いたらよいのかな。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>〈子供が実際に出した課題〉</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>書き方</td></tr> <tr><td>何を書くか</td></tr> <tr><td>どのように書くか</td></tr> <tr><td>伝えたいことをどう書くか</td></tr> </table> </div> </div>	書き方	何を書くか	どのように書くか	伝えたいことをどう書くか	<p>○ 単元の最初に、家族に対するお願いの意見文を実際に書かせることで、学習に対する困り感や必要感を感じられるようにし、自分事として課題意識をもつことができるようにする。 <span style="float: right;">視点A-①</span></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>とりあえず、今みんながもっている力で書いてみようよ。</p> <p>何が分かれば、意見文が書けるようになるのかな。</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>
書き方					
何を書くか					
どのように書くか					
伝えたいことをどう書くか					
<p>2 試しづくりで書いた意見文と、教師が作成したモデルを比較し、学習したいことを明確にする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>先生の意見文は、図とかグラフがあるから、なるほどと思える。</p> <p>どのようなグラフを、どのように入れたらよいのかな。</p> <p>写真やグラフを入れれば、もっと相手に伝わりやすい意見文が書けそうだな。やってみたいな。</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>	<p>○ 図や写真を入れたグッドモデルと、それらのないバッドモデルの2種類を提示して、比較させることで自分が試しに書いた意見文に足りないものは何か気付くようにし、本単元の学習に取り組みたいと思えるようにする。 <span style="float: right;">視点A-②</span></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>教科書の図表、本文を掲載</b> (光村図書 国語五 銀河 p.139,145)</p> </div> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">グッドモデル</td> <td style="width: 50%;">バッドモデル</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>どちらが相手に伝わりやすいと思いますか。</p> <p>二つのモデルは何がちがうかな。</p> </td> <td style="width: 50%;">  </td> </tr> </table>	グッドモデル	バッドモデル	<p>どちらが相手に伝わりやすいと思いますか。</p> <p>二つのモデルは何がちがうかな。</p>	
グッドモデル	バッドモデル				
<p>どちらが相手に伝わりやすいと思いますか。</p> <p>二つのモデルは何がちがうかな。</p>					
<p>3 単元の目標を立て、学習計画を作成する。</p> <p>自分の思いを、説得力のある文で相手に伝えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p>これはみんな同じだから、大切だね。最初に解決しよう。次はこれで学習しよう。</p> </div> </div>	<p>○ 学習したいことを短冊に書いて、出し合うようにすることで、全員が共通して学習したいことを見付けたり、学習する順序を検討しながら並べ替えたりして、自分事としての学習計画を立てることができるようにする。 <span style="float: right;">視点A-③</span></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>まとめられそうな課題はあるかな。</p> <p>どの順番で学習したらよいかな。</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>				
<p>4 「固有種が教えてくれること」を使って、課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報と文章とを関連付ける。</li> <li>・ 図表の効果について考える。</li> <li>・ 筆者の意図を追究する。</li> </ul>	<p>○ 同学年と協働して課題解決ができるようにする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>写真やグラフがあることで、どのようなよさがあるかな。</p> <p>筆者は何を伝えたかったのかな。</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>				

〈展開段階〉

課題意識を持続する

5 学習計画を見直す。



資料の選び方は、まだ解決できていないよ。



新しい課題も追加しよう。

○ 解決した課題とこれからの学習に必要な課題を確認するために、学習計画の見直しができるようにする。 **視点A-④**

これまでに解決できた課題はどれかな。

これから解決しなければならない課題は何かな。

新しく出てきた課題は何かありますか。



6 これまでの学習を基に、自分が伝えたいことの文章を書く。

7 異学年の友達と交流し、よいところを認めってもらったり、アドバイスをもらったりする。



ここに「この写真を見てください。」とか入れるといいよ。

そうか。その方が伝わりやすそうだね。

○ 同学年の子供との交流を位置付けることで、「読むこと」で学習した図表の使い方や表現の工夫を基に、自分の意見文に生かすことができるようにする。

○ 異学年の子供と交流をすることで、自分が伝えたいことを書くための「自分の考え」がより深められるようにする。

**視点A-⑤**

6年生は去年学習しているから、どんなことを書いたか、どのように書いたか聞いてみるといいよ。

グラフを入れる場所や、絵・写真についても、アドバイスがもらえるといいね。



〈終末段階〉

課題意識に対して振り返る

8 試しづくりで書いたものと比べる。



学習前



学習後



最初は1行しか書けなかったけど、こんなにたくさん書けるようになったよ。

○ 導入段階で試しに書いた意見文と、学習後の意見文を比較することで、自分自身の学びを視覚的に感じることができるようにする。 **視点A-⑥**

先生が見せてくれたモデルのようにグラフや写真を使ったので、説得力のある意見文を書くことができたよ。



9 意見文を発表し、学習したことを振り返る。



堂々と発表できて、相手にもしっかり伝わったことがうれしかったな。

○ 自信をもって発表できる場を設定したり発表を称賛したりすることで、子供一人一人が学ぶよさを感じることができるようにする。 **視点A-⑦**

ウ 成果と課題

	視点の具体 (成果◎, 課題△)
導入	<p>① ◎ 単元の導入で試しづくりをすることによって、課題が明らかになり、解決したいという意欲をもった子供は、「どのようなことをこれから学習していけばいいのだろうか。」という課題意識をもつことができた。</p> <p>② ◎ 2種類のモデルを提示し、比較させることで、課題解決への見通しをもつことができた (写真16)。</p> <p>③ ◎ 子供一人一人が短冊に課題を記入することで、より自分事として課題を捉えることができた。</p>
展開	<p>④ △ 学習の見直しの段階で、子供が新たな問いを見付けられるような手立てをとる必要がある。</p> <p>⑤ ◎ 異学年の子供と交流をすることで、下学年の子供は上学年の子供からアドバイスをもらうことができ、多くの情報を得ることで、「自分の考え」をより広げたり深めたりすることができた (写真17)。</p>
終末	<p>⑥ ◎ 試しづくりで書いた意見文と学習したことを生かして書いた意見文とを比較する場面をつくったことで、自己の変容を自覚し、学習に意味を見だし、本単元で獲得した資質・能力に自信をもつことができた。</p> <p>⑦ ◎ 自信をもって発表できたことで、子供一人一人が、課題を解決したという充実感や学習することのよさを感じることができた (写真18)。</p>



写真16 課題を短冊に記入



写真17 異学年の子供と交流



写真18 試しづくりで書いた意見文と比較

(3) 視点Bの検証

ア 検証授業Ⅱにおける視点B

表10 検証授業における視点B

	視点の具体
導入	<p>① これまでの学習を振り返り、単元の目標を確認することで、課題意識が継続されてきたことを自覚できるようにする。</p> <p>② 1単位時間の目標について協働して考える場面をつくることで、自分事としての本時の課題をもつことができるようにする。</p>
展開	<p>③ 同学年の友達と交流する場を設定することで、意見文についての「自分の考え」を広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>④ 毎時間、異学年の友達と交流する場を設定することで、意見文についての「自分の考え」をより広げたり深めたりすることができるようにする。</p>
終末	<p>⑤ 1単位時間で解決した課題についての学習の振り返りをするすることで、学習に対する達成感を感じることができるようにする。</p>

学習過程・主な学習活動	教師の手立て
<span style="background-color: #ADD8E6; padding: 2px;">〈導入段階〉</span> <span style="background-color: #ADD8E6; padding: 2px; margin-left: 100px;">課題意識をもつ</span>	
<p>1 これまでの学習を振り返る。</p>  <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">表やグラフを入れて、説得力が増すようにしたよ。</p> <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">写真も入れて、分かりやすくなった。</p> 	<p>○ これまでにどのような学習をしてきたかを振り返る機会をつくることで、これまでの課題意識が持続されたかを確認するようにする。</p> <p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">視点B-①</p> <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">これまでに解決してきた課題は何かな。</p>  <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">今日の学習は何をするのかな。</p>
<p>2 本時の課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学級発表会で相手を納得させよう。</p>  <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">どうすれば聞いている人が納得してくれるかな。</p>	<p>○ 協働して本時の課題を設定できるようにすることで、より自分事として課題を意識できるようにする。</p> <p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">視点B-②</p>
<span style="background-color: #FFD700; padding: 2px;">〈展開段階〉</span> <span style="background-color: #FFD700; padding: 2px; margin-left: 100px;">課題意識を持続する</span>	
<p>3 自分が書いた意見文を再度読み、発表に向けて準備をする。</p>  <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">きちんと伝わるか聞いて、伝わりにくいところは教えてね。</p>	<p>○ 子供一人一人の必要感に応じた同級生との交流の場をつくることで、表現の工夫等について確認し話し合うなどして、よりよい意見文となるようにする。</p> <p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">視点B-③</p> <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">お互いに発表を聞き合って、説得力をもたせることについてよりよくなるようにアドバイスしよう。</p> 
<p>4 試しづくりで書いた意見文と比べる。</p>  <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">最初は全然書けなかったけど、写真で説明したりグラフを使ったりしたら自分でも納得いく意見文ができた。</p>	<p>○ 導入時に書いたものを再度配布し、学習後の意見文と比較することで、自分自身の学びを視覚的に感じることができるようにする。</p>
<p>5 学級で発表会をして、よかったところを認めもらったり、異学年からアドバイスもらったりする。</p>  <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">グラフを使っていたのが説得力があって分かりやすかったよ。</p> <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">相手にしっかりと伝わったことがうれしいな。</p>	<p>○ 異学年との交流で、より「自分の考え」が広がったり深まったりできるようにする。</p> <p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">視点B-④</p> <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block;">6年生は、去年自分が書いたものと比べてどうでしたか。</p> <p style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">更によりよくなるようにアドバイスしよう。</p> 

**〈終末段階〉 課題意識に対して振り返る**

5 まとめと振り返りをする。

 **ただ少し工夫を加えるだけで、相手がいかに納得が書けることを、知ることができた。**



家の人にしっかりと意見を伝えるためには、図を使って説得力のある文を書けばいいということが分かったよ。

○ 学習の振り返りをするすることで、学習することのよさを感じることができるようになる。 **視点B-⑤**

この1時間は自分にとってどのような時間となりましたか。

単元の最後なので、これまでの学習を振り返ってみましょう。



ウ 成果と課題

視点の具体（成果◎，課題△）	
導入	<p>① ◎ 学習の導入で「何のためにこれまで学習してきたのかな。」、「今日のこの時間は何かできるようになればよいのかな。」と声掛けをすることで、発表を聞く人を納得させるという本時の課題をもつことができた(写真19)。</p> <p>② ◎ 協働して考える場を設定したことで、本時の課題意識を自分事として、見通しをもつことができた。</p>
展開	<p>③ △ 同学年の友達との交流では、分からない時の相談の仕方やアドバイスする時の観点を明確にする必要がある。</p> <p>④ ◎ 異学年の友達との交流を設定したことで、上学年の子供は既習事項の確認ができ、下学年の子供は情報を得ることができるようになり、多くの子供が「自分の考え」をより広げたり深めたりすることができた(写真20)。</p>
終末	<p>⑤ ◎ なぜ解決できたのかという理由を、ノートに書かせることで、「友達と協働したから」などといった学び方などを確認したことで、学習のよさを感じることができた(写真21)。</p> <p>ノートへの学習の振り返りの一例</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんなで話し合いながら自分の意見を言えた。図や写真を入れることによって、分かりやすくなることが分かった。</p> </div>



写真19 本時の課題を決める様子



写真20 異学年との交流

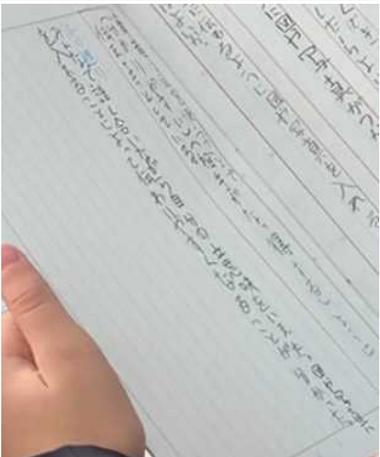


写真21 学習の振り返り

#### IV 研究のまとめ

##### 1 研究の成果

検証授業前後の子供の意識調査の結果を見ると、全ての項目の数値が同じ、または向上している(表11)。「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成に、本研究が少なからずつながったと考えたい。

視点ごとにその要因を考えると、**視点A**では、「①試しづくり」と「⑥導入との比較」に成果があったと考える。つまり、単元を通して「課題意識をもつ」ことと、「課題意識に対して振り返る」ことにつながったと言える。**視点B**では、「①単元の流れとのつながりを意識した声掛け」と、「②本時の目標の自覚化」に成果があったと考える。つまり、1単位時間においては、「課題意識をもたせること」につながったと言える。

表 11 検証授業前後の子供の意識調査

領域	学習過程	4 できた 3 どちらかといえばできた 2 どちらかといえばできなかった 1 できなかった											
		A児		B児		C児		D児		E児		F児	
		6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月
読む	構造と内容の把握	3	3	2	3	3	3	3	4	4	4	3	3
	精査・解釈	3	3	2	3	3	3	3	3	3	4	2	3
	考えの形成	3	3	3	3	2	4	4	4	3	4	4	4
	共有	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
書く	題材の設定	3	3	3	3	2	3	3	3	3	4	3	3
	情報の収集・内容の検討	2	3	2	4	3	4	3	3	3	4	2	3
	構成の検討	3	3	2	2	1	2	3	3	3	3	3	3
	考えの形成・記述	2	3	2	2	2	3	4	4	3	4	3	3
	推敲	2	2	2	2	1	2	3	4	3	4	2	3

また、表12は「読むこと」の指導事項を中心に、「書くこと」についても含めた検証授業前後の子供の理解の変容をまとめたものである。検証授業後は無答がなくなったことから、検証授業によって、学習したことを身に付けたり、学習意欲が向上したりすることにつながったのではないかと考えられる。また、網掛けの部分が、「読むこと」についての理解が向上した項目である。中でも、「7 原因と結果を示す言葉や文章を見付ける。」ことについて、5年生全員が正答することができた。これは検証授業Ⅱで、図表と文章を関連付ける学習を子供一人一人が自分の課題をもって取り組むことができた成果と言える。さらに、「8 要旨に対する自分の考えを書く。」ことについても5人中3人の向上が見られた。これは、子供たちが毎時間、自分の課題に対して「自分の考え」をもつことで、要旨に対する「自分の考え」を書く力につながったと考えられる。

これらのことから、「課題意識をもつ」、「課題意識に対して振り返る」ことについては、おおむね成果があったと言ってよいと考える。よって、子供たちが「自分の考え」をもって書くことにつながったと考える。

表 12 「読むこと」の指導事項を中心に、「書くこと」についても含めた理解を調べる問題の概要と正誤

(○正答, △誤答, 空欄無答)

	問題の概要	第5学年						第6学年					
		A児		B児		C児		D児		E児		F児	
		6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月
1	文学的文章	△	△	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○
2	登場人物同士の関わりの変化を書く。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	場面の様子や登場人物の気持ちをまとめる。	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	○
4	段落から大事な言葉を書き抜く。	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○
5	要約する。	△	○	△	△	○	○	△	○	○	○	○	○
6	段落の構成を考える。(選択式)	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	原因と結果を示す言葉や文章を見付ける。	△	○	△	○	△	○	○	○	△	△	○	○
8	要旨に対する自分の考えを書く。	△	△	○	○	△	○	△	○	○	△	○	○

## 2 今後の方向性

検証授業Ⅱの後、ある6年生の子供は、「やさしくすることだけでなく、自分が書いたもので人を喜ばせる楽しみも味わうことができた。」と言っていた。また、別の6年生の子供は、文章を会話文から書き始めたり、倒置法を使ったりするなど学習した表現の工夫を使って、図7のような日記を書いた。担任の教師の話では、その後も検証授業で学習したことが話題になったそうである。

本研究では、「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成を目指して取り組んできた。中でも、「読むこと」から「書くこと」の学習の流れに沿って「課題意識をもつ」、「課題意識を持続させる」、「課題意識に対して振り返る」の一連の流れを単元全体、また毎単位時間に、言語活動を通して組み入れた単元構成にしたことで、子供の「読むこと」への意識が高まり、「書くこと」に対する課題を克服することにつながっていったと考える。

しかし、「課題意識を持続させる」ことについて、成果を上げることが不十分であった。今後、そこに着目し、「課題意識をもつ」、「課題意識を持続させる」、「課題意識に対して振り返る」がバランスよくつながるようにし、この一連の学習の流れを繰り返す授業展開にすることで、「自分の考え」をもって書くことができる力を身に付けられる子供を育成していきたい。そしてその力を、子供たちが日記に応用したように、他教科等や日常生活に生かすことができるよう今後も研究を深めていきたい。

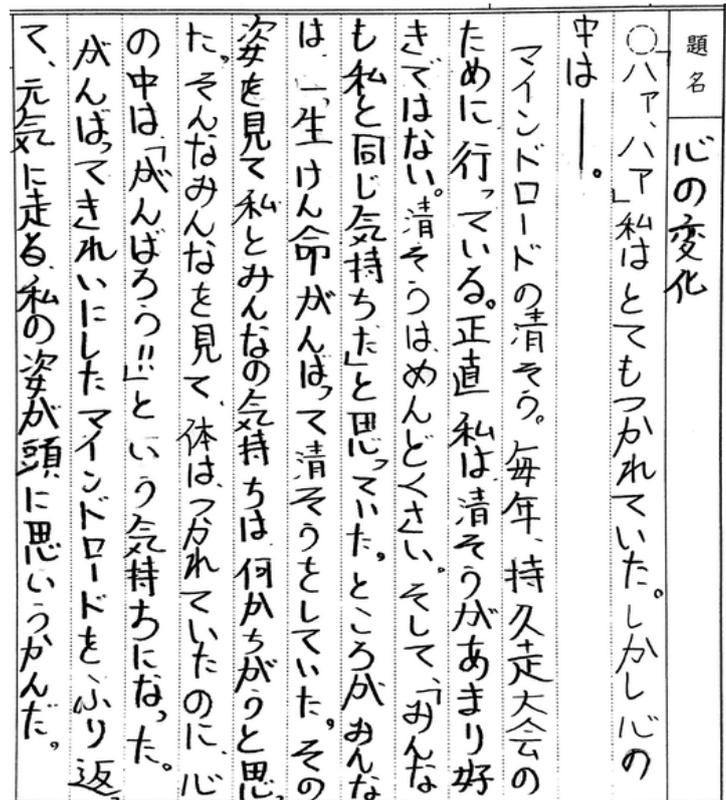


図7 ある6年生の日記